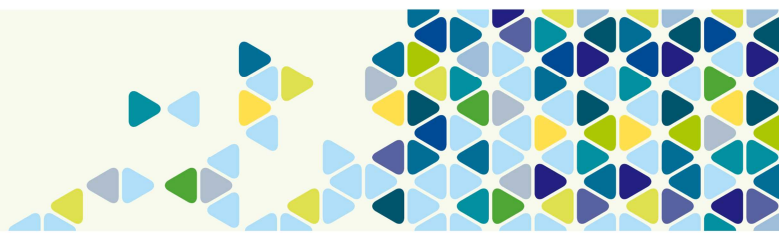


Oncology News



METexon14 スキッピング変異、MET 増幅肺がんに対するカプマチニブの効果／NEJM

非小細胞肺がん（NSCLC）では、3～4%の患者に MET 遺伝子 exon14 スキッピング変異が、また 1～6%の患者に MET 増幅が認められる。ドイツ・ケルン大学の Jurgen Wolf 氏ら GEOMETRY mono-1 Investigators は、さまざまなタイプの MET 活性がんモデルにおいて作用が認められたカプマチニブについて、METexon14 スキッピング変異が認められる進行 NSCLC 患者を対象とした第 II 相試験を行い、持続的な抗腫瘍効果が、とくに未治療の患者において示されたことを明らかにした。また、MET 増幅進行 NSCLC における有効性は、腫瘍細胞の遺伝子コピー数が少ない患者よりも多い患者で高かったこと、主な副作用は軽度の末梢浮腫および悪心であったことも示された。NEJM 誌 2020 年 9 月 3 日号掲載の報告。

MET 増幅進行 NSCLC 患者におけるカプマチニブの評価は、複数コホート試験にて行われた。患者は、既治療ラインと MET ステータス（MET 遺伝子 exon14 スキッピング変異または MET 増幅）に基づくコホートに割り付けられ、カプマチニブ 400mg×2/日を投与された。

主要評価項目は、全奏効率であった。主な副次評価項目は、奏効期間とした。両評価項目は独立審査委員会で評価された。

主な結果は以下のとおり。

- ・合計 364 例が、コホートに割り付けられた。
- ・MET 遺伝子 exon14 スキッピング変異 NSCLC 患者において、全奏効率は、1 次または 2 次治療既往の患者（69 例）では 41%、未治療患者（28 例）では 68%であった。
- ・奏効期間中央値は、1 次または 2 次治療既往患者群 9.7 ヶ月、未治療患者群 12.6 ヶ月であった。
- ・遺伝子コピー数 10 未満の MET 増幅既治療患者における有効性は、限定的であった（全奏効率 7～12%）。
- ・遺伝子コピー数 10 以上の MET 増幅患者では、奏効率は既治療群で 29%であったが、未治療群は 40%であった。
- ・最も頻度の高かった副作用は、末梢浮腫（51%）、悪心（45%）であったが、大半が Grade1/2 であった。

<関連文献>

Wolf J, et al. N Engl J Med. 2020;383:944-957.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/32877583/>

当コンテンツは、株式会社ケアネットの監修により、がんに関連する重要論文を選別し、それらを簡潔に要約したニュースレターです。当社の見解を述べるものではなく、承認外使用を推奨するものではありません。内容の詳細については元文献・元ニュースを、製品に関する情報は各製品の最新の添付文書をご確認いただきますようお願いいたします。

尚、当コンテンツに掲載されている記事等に係る所有権、著作権その他一切の権利は、ニプロ株式会社、株式会社ケアネット、コンテンツ制作者等の著作権者が保有しています。